

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

新 10,000 円札発行 渋沢栄一先生が肖像のモデル

今週、20年ぶりに紙幣が新しくなります。新一万円札に掲載されているのは、本校ゆかりの渋沢栄一先生(1840～1931)。70歳の時の写真を元に60歳代前半を想像した肖像だそうです。

渋沢先生は明治維新後、大蔵省の官僚として活躍し、第一国立銀行を拠点に数多くの民間企業の設立と育成に関わり、「日本近代経済の創設者」と称されています。教育や文化事業にも携わり、「論語」を生涯の指針として掲げ、二松学舎創立者の三島中洲先生との親交から第三代目の舎長(学校の代表者)として、本校のために尽力された人物です(駅の看板(左端)でもおなじみですね)。

二松生として、渋沢先生のことを知っておく必要があると思います。図書館入口には、先生に関するコーナーが設けられ、関連書籍が紹介されています。ぜひ、利用してください。

ちなみに、裏面は、「赤レンガ駅舎」として親しまれた歴史的建造物(重文)の東京駅が描かれています。



部活動観戦・観覧記

野球部

6月27日(木)野球部3年生の引退試合が江戸川球場で都立小松川高校を相手に行われました。コロナ禍で数年実施できていなかったそうですが、久しぶりに保護者もスタンドで観戦し、子供たちの活躍に拍手をし、目を細める場面が見られました。

序盤こそ緊張からか実力が発揮できていなかったようですが、中盤からはホームランも含め打線が爆発する猛攻を見せて相手を圧倒、投手陣も零封のラリーで相手を寄せ付けず、終わってみると危なげない勝利でした。3年生がベンチ前で円陣を組み、野球を楽しそうにプレーしているのが印象的でした。1・2年生も終始スタンドから大声援を送り先輩のプレーを目に焼き付けたことでしょう。試合に出場した3年生は夏の大会を前に試合からは離れ、大会メンバーのサポートに回るとのこと。チーム一丸となって甲子園出場を目指してくれることを期待しています。



吹奏楽部

6月23日(日)吹奏楽部の演奏会が四ツ谷にある「迎賓館」の玄関及び前庭で開催されました。朝からぽつりぽつりと雨の降る天候でしたが、開演の14時には小康状態となり、演奏がスタートしました。演奏前は少し、ドキドキした様子でしたが、実際に演奏が始まると迎賓館150周年の記念イベントを祝う「栄光をたたえて」の行進曲から、「威風堂々」など迫力ある演奏が続き、最後はノリノリの「マツケンサンバ」と全5曲を演奏してくれました。

前庭には開演の1時間以上前から保護者の皆さまもつめかけていただき、曲に合わせて手拍子を送るなど、小雨の寒さを吹き飛ばす熱気であふれ、最後は大きな拍手でアンコールがかかりそうな雰囲気でした。

現役生に加えOBにも参加いただき、多くの皆さんに喜んでいただけたことと思います。

